

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

## あなたは何を見ているのか

ブロックアドバイザー 川嶋直行



「主のことは私にあった。『エレミヤ、あなたは何を見ているのか。』私は言った。『アーモンドの枝を見ている。』すると主は私に言われた。『あなたが見たとおりだ。わたしは、わたしのことを実現しようと見張っている。』」（エレミヤ一章11、12節）

預言者エレミヤが活躍した時代は、南ユダ王国の末期、バビロン捕囚の直前でした。危機が迫る中、エレミヤは、主のことは語るよう召しを受けます。主は、エレミヤに「あなたは何を見ているのか。」と3回問うておられます。エレミヤは、『アーモンドの枝』（一章11節）、『煮え立った釜』（13節）、『良いいちじくと悪いいちじく』（二四章3節）を見えています。」と答えています。

エレミヤは、目前に「バビロン捕囚」という危機が迫っていること、しかし、その危機を通して、捕囚の民の間に「霊的覚醒」が起こることを見ていたのでイスラエルの歴史を見ると「バビロン捕囚」は、エルサレムの神殿中心の宗教から、ローカル・シナゴークにおける「みことば中心の礼拝」への起点になったことが分かります。一見すると禍のように見えますが、実は、いつまでも残る実を結ぶための、刈り込みではなかったかと思うのです。

私たちは、コロナ禍により、「集まりたくても、集まらない」という現実直面しました。本部の入っているお茶の水クリスチャンセンターも入館制限が掛かり、普段本部で奉仕をされる方々は、自宅からリモ

トで仕事をされていました。教区会や、教団運営委員会も、オンライン会議となりました。モニター越しのミーティングに未だ慣れていないため、妙に緊張することはありましたが、移動による疲れも無く、交通・宿泊費も掛からず、随分経済的だなあと思いました。

多くの教会で、オンラインによる礼拝、祈り会等への対応が進んで行ったようです。説教原稿を届けるスタイルも案外好評で、初代教会時代の手紙の回覧を思いながら配達しました。このコロナ禍をきっかけに、社会は変わってくると言われています。ソーシャルダンス等で、礼拝や集会の「かたち」は変わって行かざるを得ないのかもしれませんが。愛餐や聖餐をどうするかという問題もあります。しかし、主イエス様のご臨在に変わりはありません。これらのことも全て益に変えられると信じています。私たちは、動かされることなく、堅く信仰に立ち、柔軟に対応して行きたいと思えます。

「あなたは何を見ているのか。」アーモンド（あめんど）は、春の訪れを告げ知らせる木です。冬の眠りから目覚め、いのちの躍動が始まる「目覚めの木」とも呼ばれます。エレミヤは、迫りくる危機を直視し、捕囚後のことを思い、既に始動しつつある「神のわざ」を見ていたのです。主は、「よく見たものだ。」「わたしは、わたしのことを実現しようと見張っている。」と、言われました。コロナ禍の中で、主の新しい御業が始まっています。

### 目次

- あなたは何を見ているのか……川嶋直行……1
- 第75次年会につて、新しい任地で……2
- ペンテコステの黙想、祈りのネットワーク、オンライン……3
- 海外トピックス、国内教会局、読書のひろば……4
- 北日本ブロック近況と祈りの課題、人権委員会……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

# Immanuel

オンラインによる年会開催

総会を前にした大切な年会です  
心と信仰を一つにする時



教団代表 内山 勝

新型コロナウイルス感染拡大の影響がここまで長引くとは、あの時点では思ってもいませんでした。年会を6月に延期し、規模を縮小することで対応できると考えましたが、それも難しくなりました。初めてのことで、一所に集まることを避けて、インターネットビデオ会議で行うこととなりました。今までこのような形態で年会を開催したことがありませんので、不安要素もあります。格別にお祈りをいただきたくよろしくお願ひ申し上げます。

質問や意見を受け取らせて頂きました。通常の年会でこれだけの質問は上がってこないでしょうから、間接的ではありますが、先生方が誠意をもって年会に加わっていただくことを感謝します。

メール交換による質疑応答を経て、来たる6月8日、オンラインで事務年會に臨みます。

主な議題は、次の通りです。

- 2019年度の報告について  
年会資料の内容について承認をいただければ幸いです。
- 2020年度の方針について  
特に2つの重要な提案があります。信徒局が導入しようとしている「エリア制」についてご理解いただければ願っています。
- 2021年に予定されている第22次総会に向けて  
総会期日について、そして議員定数について承認いただきたく願っています。
- 総会に提出を願っている条例改正方針については、すでに多くのご意見をいただいています。年会はそれを議決する場ではありませんので、時間が許される限りの意見交換にとどめます。
- 新型コロナウイルス対策について  
今後の基本的方針について国内教会局から説明があります。

限られた3時間ほどの会議ですが、有益なものとなるように、何よりもお祈りを願ひします。

牧師として第一歩を踏み出し

異例づくめのスタート

普通であることが  
恵みを知る機会に

北九州教会 峯尾仰生

北九州教会に赴任後、ある友人と電話をしていた際、「今、大切にしている言葉はある？」と質問されました。その瞬間、私の頭に浮かんだ言葉は「普通」でした。この言葉が浮かんだ背景には様々

な自分の姿がありました。初めてのことが一気に降りかかってくる状況に対して、かなり力んでいる自分。背伸びをして万感をだそうとしている自分。様々な動きを目の当たりにして、「普通」にやりたいと思っている自分。落ち着くことができず、普通の自分を見失いそうになって、頭に浮かんだ言葉だったのかもしれない。

引越をした三日後に臨時の役員会を開き、会堂に全員が集まることをやめる決断をしました。任地での最初の奉仕がこの役員会でした。ここでも普通の自分が必要でした。今までやってきたことや将来への影響を考慮しつつも、今すべきことを考えるバランス。このバランスを生み出すのは神様を

土台とした普通の自分でした。現在、集まらないという変化の中ですが、信徒の方からの「ここでも新たな恵みがあるよ」との声に励まされています。メッセージを全文原稿にすることで読み返せる恵み、信徒間同士での手紙や電話による祈り合いの増加、当たり前を見つめ直す恵みなど。この状況だからこそその展開と恵みでした。しかし不安もあります。会堂返済の重圧、教会財政の厳しさ、牧会や伝道方法の見つめ直しなどきりがありませんか。しかし神様はこの状況の中で「安心して心配しよう」と私に語りかけてくださっています。この言葉が普通の自分へと整えてくださり、新たな展開へと導いてくださるのだと信じています。

新たな進発の時

諸先輩の土台の上に  
札幌の地が宣教の  
拠点となるように

札幌教会 蔦田康毅

コロナウイルスの特定警戒地域指定直前に、札幌に着任しました。まず、宣教留学と在日ディアスポラ宣教の14年間の働きと、今回の転任のために尊いお祈りを頂きましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。この貴重な

経験が、国際都市・札幌での伝道や教会建設に、少しでも活かされることを願っています。

着任しましたが、集会を持てず、会員や関係者ともお会いできない前代未聞の特殊な状況が続いています。現在はメッセージを週報に載せ、郵送、ネットを使って届けるほか、メッセージのライブ配信や電話による連絡などをして、欠けを補っています。

これまでと同じ生活に戻れないだろうと言われている中、前任の渡辺先生ご夫妻はじめ、歴代の牧者たちが築いてこられた土台の上に、新しい時代の可能性を見出し、インマヌエルらしい、札幌らしい教会として成長してゆけますよう

にお祈りください。

札幌教会はWGMのボグス宣教師によって開拓され、昨年、創設60周年を越えたところです。私たちは二人ともそれぞれ、CS時代にWGMの久芳先生、バルカー先生の集会で入信に導かれました。宣教の教会、次世代のリーダーを育てられる教会でもありたいと願っています。

数か月の後、厳しい冬の戦いも待っているそうです。雪国での生活と牧会、奉仕にも順応できるように、兄弟姉妹と共に、地域の方々と始め、札幌から届くことのできるすべての方々に福音を届ける宣教の拠点となるように、ゼカリヤ八・23の表現をお祈り下さい。

ペンテコステの  
**黙想**  
喜びは聖霊の賜物です



ウェスレアン宣教師  
アンドレア・スワウトアウト

数年前、ある教会に招かれ、そこでコワイアの賛美を聞きました。一人の男性と目が合いました。彼は歌っているとき、満面の笑みを浮かべていました。しばらく彼から目を離すことができませんでした。彼は喜びに溢れて歌っていたのです。ちょうど舞台照明が彼の後ろにあつて、文字通り彼の顔は光を放っているようでした。イザヤ書35章10節「彼らは喜び歌いながらシオンに入り、その頭にはとこしえの喜びを戴く」のように。歌っているときの笑顔を見るのがどんなにすばらしいかを彼に話しました。彼の答はこんな感じでした。「神さまは私に多くの事をしてくださいました。だから喜ばずにはいられないのです。」すべてのクリスチャンがこうした感覚を理解できたらと思います。喜びは力そのものです。でも自動的にもたらされるものではありません。

第一に、喜びには感謝の思いが必要です。感謝がなければ喜びはありません。喜びは、イエスさまがしてくださったすべてに対する信じられないほどの感謝の思いから出てきます。第二に、喜びには行動が必要です。喜びは、私たちの生涯に関わる神さまのご目的を達成する中で見出されるものです。ヘブル12章は、イエスさまがいのちを与えてくださったのは、神さまが主を通して私たちを救おうとされたことを知っておられたからだとして記されています。喜びは私たちが主と同じ使命に立つとき与えられます。第三に、喜びは賜物です。それは神さまとの交わりを通して与えられます。神さまこそ喜びの源泉だからです。聖書は、喜びは三位一体の神さまから来ると述べています。御父と御子と聖霊です。父なる神は、被造物を覆う喜びを持つお方として語られます。この喜びを私たちの中に吹き込むのは聖霊の力です。第四に、喜びは私たちの生涯に聖霊が働いておられる証拠となります。喜びは聖霊の実なのです。さらに聖霊に満たされるなら、私たちの生活にある喜びがそれを証明してくれます。ネヘミヤは、主は私たちの力だと言っています。喜びは必要です。苦難の人生にあつて、喜びは賜物なのです。もし喜びに欠けているなら、感謝か、目的か、交わりか、あるいは聖霊の内住か、何か欠けてはいないか、祈ってみると良いでしょう。この中のどれか一つでもズレているなら、いのちの賜物である喜びは奪われてしまいます。

ご協力を感謝します！

祈りのネットワーク  
**2020送付します**

「祈りのネットワーク2020」が出来上がりました。今年も異例づくめで、例年のように各教会に追加注文をお尋ねできませんでした。部内で検討し、昨年と同じ部数をお送りいたします。例年のように教報購読者の皆さまには無料です。今年はこのような状況ですので追加注文の方にも無料でお分かります。もし例年のようにお支払いくださる場合は、教会への献金としてそれぞれの教会でお用いください。今回は教団への支払いはありません。3月からお茶の水の本部業務が停止され、出勤できない状況が続いています。「祈りのネットワーク」の発送も外部委託いたしました。あるいは手違いなどあるかもしれません。その場合は恐れ入りますがコロナの感染が終息してから対応させていただきますので、しばらくお待ちください。今回も先生方にはご協力をいただきありがとうございます。しかし数年間同じ写真というケースもあります。読者の期待もあります。ぜひ今から写真をご準備ください。来年は新しい写真をお送りいただければ感謝です。(矢木)

インターネットの活用

オンラインで教会活動を支える  
工夫次第で便利な道具に



立川教会 佐藤信行

今回の緊急対応だけでなく、平時の集会出现が難しい遠隔地や療養中、高齢者の方々へのケアのためにも、今日、オンラインの通信や会合の必要性が高まってきています。そこで既にさまざまな対応がなされている中で、一牧師の立場から極めて簡単ですが、検討や導入のため可能な技術的対応・選択肢を記したいと思います。現在、オンラインでの会合として考えられているものは、基本的にインターネットを用いた遠隔地の通信です。ですから導入に必要な基本的環境は、スマホで良いので、インターネットで閲覧・通信のできる環境が必要です。それがない方の場合には従来の郵便やメール等の通信手段で補完する、または閲覧・通信が可能な所に少人数で集まるのも選択肢となります。その上で各通信や会合の特徴に合った手段を選ぶことが大切です。それぞれに必要な通信形態を次の項目などで整理します。

- ① 双方向通信か単方向通信か
  - ② 同時ライブ通信か収録通信か
  - ③ 映像付き通信か音声通信か
- 詳しい説明は割愛しますが、今日、相談や会議など比較的少人数の通信では、可能な限り、先の①双方向+②同時的+③映像付き通信が、採用される傾向にあります。ここで最も導入が容易なものとして昨今Zoomサービスが注目されています。安全性はかなり改善されました。必要な機材も最小限で済みます。しかし双方向通信だからこそ、多人数になれば適切な進行役が必要です。教会では相談や会議だけでなく、例会やCSなどにも応用できる手段です。一方で必ずしも同時双方向通信が必要ない場合もあります。礼拝を始めとする集会などでは、双方向通信で賛美や交誼など一斉に声をそろえることは現状では技術的に困難なため、単方向通信で対応することも一案です。単方向通信ならば同時通信ではなく、収録(録音録画)後の通信も可能ですし、映像に変化が少なければ、音声のみ通信も選択肢の一つです。プライベート設定等の安全性にはこちらも注意しながら、映像付の配信ならばYouTubeなどの動画配信サービスを利用し、音声のみ配信ならば、教会のホームページに埋め込むことも可能です。なお、各教会で導入する際にはその目的と対象を明確にして、多くの人が共有できる方法から始められることをお勧めします。

国内教会局から

教会建設の務めに  
コロナ渦中の教会を考へる

「彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。」  
全国の緊急事態宣言解除後のことを考え書いているのは「以前のように戻る



「彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。」  
全国の緊急事態宣言解除後のことを考え書いているのは「以前のように戻る

「彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。」  
全国の緊急事態宣言解除後のことを考え書いているのは「以前のように戻る

■北朝鮮、韓国ドラマ流布や聖書所持していた住民を「処刑」  
北朝鮮の住民たちは、韓国ドラマを流布したり、聖書を持っていたという理由で裁判を受けずに処刑されるなどの事例が発生している、と韓国の情報サイトが報じた。  
韓国統一研究院が5月12日発表した『北朝鮮人権白書2020』で「北朝鮮では依然として住民たちの生命権がきちんと保障されていない」とし「特に拘禁施設内で超法的、略式または恣意的に処刑がなされていると把握された」と伝えた。白書は「最近の数年間、麻薬取引行為と韓国録画物の視聴・流布行為に対する死刑事例が増加している」とし「麻薬が北朝鮮全域に拡散し、住民たちが韓国の録画物を視聴・流布する事例が増え、北朝鮮当局は取締まりと処罰を強化中」と説明。2018年には平安北道(ピョンアンプロクト)で聖書を所持していたという理由で2人が公開処刑されたのを目撃

したという証言も収集された。  
■新型コロナウイルスに対抗、子どもを力づける米国の日曜学校教師たち  
新型コロナウイルスのパンデミック下で重要視されて来たのが、「こころの健康維持」。米国のキリスト教会は、信徒が日常の生活リズムを守るよう配慮し、特に子どもを慰め、力づけよう、と「日曜学校」(教会学校)の教師が、信徒宅で「電子版」を展開するオ



海外トピックス

ンラインサービスを始めた。  
中部ミズーリ州ジェファーソンシティーの第一バプテスト教会プライアン・ケイラー牧師は、教会のオンラインサービスを日曜学校の教師が毎晩、寝物語を見る息子ケイガン君の姿を見て、自宅待機要請、学校閉鎖や社会的距離戦略など「パンデミック」がどのように子どもに感情面で衝撃を与えていたかを知った。日曜学校の教師が悲しみと怒りに対して話していると、「どうやって、先生は僕の心の中が分かるの」と、ケイガン君。彼は、「友だちに会えない」苦痛と闘っている。日曜学校の教師が、子どもたちに向けてメッセージをする、テレビの大型画面前に走って行く。何よりも、ネット上で居合わせた友だちに、レゴで組み立てた最新作を見せたいのだ。「私たちの教会が示していた社会的交流と心地よさを、息子が私自身より今必要としていると思う」と、ケイラー牧師。(平瀬聡樹)



「彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。」  
全国の緊急事態宣言解除後のことを考え書いているのは「以前のように戻る

「彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。」  
全国の緊急事態宣言解除後のことを考え書いているのは「以前のように戻る

「彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。」  
全国の緊急事態宣言解除後のことを考え書いているのは「以前のように戻る

「彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。」  
全国の緊急事態宣言解除後のことを考え書いているのは「以前のように戻る

「彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。」  
全国の緊急事態宣言解除後のことを考え書いているのは「以前のように戻る

「彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。」  
全国の緊急事態宣言解除後のことを考え書いているのは「以前のように戻る

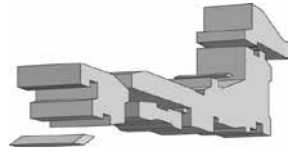
「彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。」  
全国の緊急事態宣言解除後のことを考え書いているのは「以前のように戻る

読書の  
ひろば  
神学委員会論集12  
聖書(下)  
神学委員会編著  
出版事業部扱い  
定価六〇〇円+税

つ、なお聖言の権威とその確かさの意味合いを確認する試みです。また、この度の新たな試みの一つは写本作成の工程を守備範囲に加えたことです。これまでは厳密に言えば靈感は原典に限られ、写本には及んでいないと理解されて来ましたが、そしてその枠をいたずらに操作するものではありません。しかし、原典が書き著され、用いられ、やがて書き写されていくそれぞれの工程について、当事者たちが自覚していた神的働き掛けの深さを、後代の信仰者たちが改めて汲み取ることが聖書の靈感の理解を深める一助になれば幸いです。今ひとつ、新約文書の成り立ちについて、丁寧な考察を試みました。二十一世紀の私たちが書齋でパソコンや原稿用紙に向かつて手紙や文書を作成するイメージと、新約時代の教会指導者たちが様々な制約の中で、筆記者を頼り、郵送者(「朗読者?」)と打ち合わせながら書き送る姿は決して似通ったものではなく、私たちが「原典に置いて」靈感が、と主張する時にそれがどのような形で現実味を帯びるのか、新約諸文書執筆の実際と結びつくのか、理解を深める学びが許されたら幸いです。

また私たちがメソジストが引き継いできた伝統と神の靈感のみわざとを対話させながら、神学的にもウェスレアンらしい靈感理解を深めていくことは、必ずやキリスト教界に対しても貢献となるように思います。(葛田崇志)

# 国内教会局 スクエア



## 北日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

川嶋 直行

「民よどんなときにも神に信頼せよ。あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。」(詩篇六二篇8節)

北日本ブロックは、北海道地区(本部直轄)の三つの教会、東北教会の九つの教会、北関東教会の十の教会から構成されています。日本の半分近くの面積を占める広い地域に、教会が点在しているブロックです。長かった冬が終わり、嬉しい春が訪れましたが、今年は、新型コロナウイルスの為に、例年とは全く違った状況を通してあります。いつも、北日本ブロックの諸教会のために、お祈り頂き、まことにありがとうございます。

### ■北海道地区

北海道は、5月のゴールデンウィーク過ぎ頃に、桜をはじめ、花々が一齐に咲き始めます。北海道は、知事によって、いち早く、新型コロナウイルス・ウィルス感染防止の外出自粛を伴う緊急事態が宣言され、教会に集まったの集会は中止、説教をプリントやCDで各家庭に届けられています。札幌教会は、渡辺昇先生、宣子先生が引退され、葛田康

毅先生、由理先生が着任されました。葛田先生方は、非常事態宣言下での引越しとなりましたが、神が開かれた戸を通り抜けるようにして、無事に転任が行われました。東京から移動したということ、買い物にも出られないという不自由な中、札幌教会の信徒の方が、食材を持って来てくださったりして助けられたと伺っています。今後の北海道宣教の為に、ぜひ、お祈りとご支援をお願い致します。

■東北教会区  
東北教会区は、岩手県の「みどりの郷」に集まる予定でしたが、オンライン(Zoom)会議に変更となりました。若手の先生方のご愛労により、大湊から鶴岡白山まで九つの教会がインターネットで繋がったことは、大変感謝なことでした。お祈り頂いている盛岡教会の国光ひろ子先生も、手術と治療が上手く行き、お元気にしております。東北聖会は中止となりましたが、南聖会は、講師の説教をCDに録音して配布することに

なり、北聖会は、同じく今年中止となった北海道ポプラ聖会とジョイントして、オンライン(Zoom)聖会となりました。深川(講師)、盛岡、札幌からメッセージと証詞特別賛美を配信します。そのための準備会もオンラインで積み重ね、良き交わりと祈りの時となっています。鶴岡白山教会と十和田教会で今年計画していた伝道サポートシステムを使った集会は、中止となりました。

### ■北関東教会区

北関東教会区は、スエックで、主任牧師だけ集まって行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で5月末まで閉館となったため、メールやFAX、郵送で行われました。今年、狭山教会の橋本千尋先生が引退されました。これまでも日本宣教会狭山教会(小坂嘉嗣先生)と定期的に礼拝を共にして来ましたが、この度、4名の第一種会員が転会をされ、現在、教会活動は行われていません。会堂は教団の管理下に置かれています。大宮教会は、定住伝道師として大島あや子先生が任命され、6月に復帰される予定です。浦和教会は、松井元始先生が王子教会に転任となりましたが、緊急事態宣言が終わるまで、浦和教会に留まり奉仕を継続されます。その後は、主任牧師の田中進先生が月一回、残りは、協力牧師の新垣先生が説教をされる予定です。9月に別所沼会館で行われる予定の北関東聖会は、開催の可否を検討中です。

### 人権委員会発行のパンフレット

## 聖なる教会を日ざして

ハラスメントを起こさないためにはどうしたらよいか



教団代表 内山 勝

お互いを思い遣り、聖書が教えているように、互いに愛し合い、仕え合う「聖なる教会」を目指して進めるよう願って作られたのです。人権委員会が当初から設定していたゴールは、このパンフレットを広く教会の皆さまに読んでいただくことによって共通理解が定着し、健全な教会づくりができる良い土壌を整えることでした。

このたび、人権委員会のご尽力によって、いのちのことは社から、パンフレット「聖なる教会を日ざして」ハラスメントを起こさないためにはどうしたらよいか」が発刊されました。

前々代表の竿代照夫師の時代に、ハラスメント問題に対応するため、ハラスメント問題に発足した。それを受けて、前代表の藤本満師の時代に、年会や牧師・役員研修会でハラスメントについて学ぶ機会を重ねました。その学びのために用いられたのが、今回発行されたパンフレットの原型とも言えるべきものです。出来るだけ、数年の歳月を要した力作です。

当初よりパンフレットの目的は、ハラスメントの事例を見つけて告発するためではなく、教団や教会が「ハラスメントを起こさないためにはどうしたらよいか」ということでした。多くの方が学んで、

今まで気づけなかった問題を自覚するように、自ら言動を改め、

教団に限定せず、広くキリスト教界に資するものとしてほしいとの願いを承り、何かのお役に立てるならということで、同社のお申し出をお受けしました。主の摂理的な導きは望外の喜びです。この陰には、長きに亘る人権委員たちの犠牲的な労苦、特に、並々ならぬ情熱と責任感を持って先頭に立たれた故伊藤正泰師のご功があったことを感謝します。

定価は500円(税別)ですが、教報購読者には教報の付録として無料頒布することにしました。購読を希望する方には、教団内特価で400円でお買い求めいただけます。

ぜひ、一人でも多くの方が手に取ってお読みくださるよう心からお薦めします。

巻頭言

あなたのために祈りました



世界宣教局  
田辺 寿雄

ケニアで宣教師として奉仕した最後の年でした。日本からささげられた献金をきっかけに「マイバ イブルキャンペーン」を実施することになりました。現地のクリス



広げた翼

Immanuel  
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

チャンの多くが自分の聖書を持っておらず、このキャンペーンを通して一人でも多くの方々に「自分の聖書」を手にしてもらおうと、カボソン牧師学校の学生たちと共に近隣教会に働きかけることを計画。献金でカレンジンという部族語と英語の聖書を購入し、割引して売ることになりました。神学生たちには説明をし、キャンペーンの実施を発表したものの、私の心の中には何とも言えない不安と恐れがありました。上手くいくのだろうか、現地の人を甘やかすことにならないだろうか、誰かに批判されないだろうか、等々。プレッシャーだったのかもしれない。そんな重たい気持ちで迎えた朝、パソコンでメールをチェックすると、一通のメールが受信箱

に。かつてケニアを訪問して下さったアメリカ人からでした。短いメールの中にこんな一文がありました。「今朝、あなたたちのために祈りました。」

それを読んだとたんに、涙があふれてきました。しばらく一人で泣いていました。神様が「大丈夫、わたしも一緒だよ」と言ってくださったように思えて、重たかった心が一気に軽くなっていました。その後数か月に及んだキャンペーンは、色々苦労はありましたが、私にとつとでもやりがいのある働きとなりました。学生たちは献身的に協力し、予想を超える数の教会がキャンペーンに加わり、「これくらい売れたらいいかな」と思っていた数の五倍近くの人が、聖書を購入しました。「お祈りしています」と言われるのも幸いです。今朝先生のために祈りました」「昨晩祈禱会でケニアのために祈りました」など、「祈りました」と言われるほうが、よりパワフルに感じられることもあります。

コロナで世界中が大変な今、「あなたのために今日祈りました」の一言を、宣教師、牧師、教員、大切な誰かに伝えてみてはいかがでしょう。祈る者、祈られる者と神様を一つにつなげる不思議な力。祈りは誰かを励まし、癒し、支えます。あなたは今日、誰のために祈りますか？

「わたしはあなたのために、祈りました。」(ルカ二・32)



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子\*2020年5月4日

「主は私のためにすべてを成し遂げてくださいます」(詩篇一三八・8)

コロナウイルスによるロックダウン措置が取られてから、一か月が過ぎました。感染者総数は8500人を超え、回復者は一日20〜40人、死者数は一日10〜20人程です。私たちは大学の敷地内に住んでいますので、敷地内に限り比較的自由に出入りできます。日中は、灼熱の日射しのため外出が困難ですが、涼しくなる朝夕、各々外出し散歩や運動をしています。四月の動向をお知らせします。

まもなく、強化されたコミュニケーション隔離措置(ロックダウン)が解除される日(4月14日)が近づいてきたとき、その延長(4月30日まで)が大統領府長官より報告されました(4月7日)。それに伴い、教育機関においても、5月の卒業式の自粛が各学校に要請され、私たちの聖書大学もやむを得ず、卒業式を中止、そして、帰省

している学生たちも大学に戻れなくなりしました。一番頭を悩ませているのは8月に新学期が開始できるかどうかということです。学生たちが戻れなくなったため、課題やテストの方法の変更を余儀なくされました。なるべくネット回線の弱い環境に置かれた学生に合わせ、学生たちの精神状態にも配慮しています。

日本と同様に、礼拝自粛に追い込まれているウエスレアン教会の牧師たちはネットワークを使って積極的に礼拝配信をしています。とはいえ、経済活動が停止し、献金も滞り、牧師(家庭)たちは困窮してきています。とりわけ経済力のない地域の牧師(家庭)たちは逼迫した状況に追い込まれています。この牧師たちの中には私たちの教え子たちも含まれるため祈らざるを得ません。

私たちの住むパンガシナン州では新感染者数が一週間ほどゼロが続く、このままいったら4月30日の隔離措置が解除されるのではと妻とも話し、淡い期待を寄せていたところ、政府から隔離措置の延期(5月15日まで)の発表がありました(4月24日)。

4月はオンラインで日本の礼拝(深川、久留米)や祈禱会(富士見台)に出席することができました。ズームを通しての双方向な礼拝、ユーチューブでの礼拝ライブ配信をとおし、日本語の賛美を歌い、説教を聴き、とても感謝な時となりました。■



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃\*2020年5月5日

「全てのことがともに働いて益となることを私たちは知っています。」(ローマ八・28)

世界が疫病の危険にさらされている最中に詩篇九一篇の御言が諸教会で、個人の密室の祈りの中で開かれ、励まされている時、カンボジアの宣教地でも同様の報告と祈りの要請が届けられ、皆様方の御祈りに感謝致します。

昨晚(因みに私の新しい住居が神栖に与えられ宣教のベースとして移るべく、引越の荷物整理の中ですが)スカイプにより現地の報告を聞くことができました。3月の終り頃から発令された政府による全宗教的集会禁止令で、既に礼拝は閉ざされ、何人かの信徒は社会経済弱体化の波により職を失い、故郷に戻らねばならない状態に置かれております。サタンの攻撃の激しい中ですが勝利者なる主は些かもその御力を衰えさせることなくご自身の御心を推し進め働いておられる事実の報告に心中に淀む

重たい霧がスッと消えていった一瞬を経験しました。主は働きをこの時だからこそ可能な形で進めておられました。その方法とは日本でもなされておりますウェブで発信するメッセージの利用です。ヴァンデイ師は毎週土曜、日曜の2回に亘り、礼拝に來れない教会のメンバーに御言を語るべく動画配信を通して会員たちに礼拝の時間にこれを聞くようにと伝えて発信していましたが、実はその説教の聴衆は唯教会員だけでなく、地方にすむご両親、ご兄弟姉妹や、KCCだけでなく他の教団の牧師達も聞いておられるという事を知りました。特に地方にすむご両親がスマホで息子の語る福音のメッセージに耳を傾けて居られる事を知らされた時は、主のご計画の中にあるパンデミック!人の目には禍と見える事すら神の御業により益とされている事実に何度も「ハレルヤ」を連発しました。またマールク宣教師はご自分の住いで数人のメンバーでの聖書の学びをしておりますが、ほとんどは宣教師たちだそうです。その中に名前を出せない宣教地からビザの更新のためにカンボジアに入国中、このコロナ騒ぎで戻れなくなったご夫妻ための祈りの要請もあります。この様な中で進められている神様の別の宣教師手段に御霊の力強い御働きが伴い、禁止令が解除した時、このメッセージに触れた人々の中から教会に導かれ救われる方々が興されますようお祈り下さい。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子\*2020年5月10日

お祈りを感謝致します。国を挙げて、渡航制限や夜間の外出制限、主要都市の封鎖、車両人数の制限等、なんとか爆発的な感染が起らないように努力が続いています。国全体として感染の報告例はありますが上昇は緩やかで、テヌウェク病院としてはまだ陽性と診断された方の受け入れは経験していません。依然「もしも検査で陽性の患者さんが来られたら」を想定した準備と、感染予防の普及・実施が続いています。

例年通り4月は年次休暇を取りました。今までは、休み中や夜勤明けのスタッフが私服でふらっと職場に挨拶に來たりする場面もありましたが、感染予防のため、人の出入りを制限している状態なので、最近文章で勤務でないスタッフは來ないように通達があったこともあり、できるだけ家で過ごすしくしていました。

それでも、結局週に2回位は短時間病院に上がることになりました。

た。例えば移動制限のせいで遠方の仕事ができなくなった人が増えて院内の改築をする人手が確保でき、懸案だった滅菌室の移転が急進展することになったので意見を聞かれるための呼び出し。業者さんの仕事が減って時間ができたので、数か月越して滞っていたやり取りに終止符を打つための呼び出し。「もしも」を想定した時の部屋の配置や人や物の流れ等、話し合った結果の検証や文書化、図表化を手伝ってほしいという依頼。密集を避けるため、毎朝のデイブーションはその日担当の部屋毎に行うようになりました。ただ、水曜日の朝は、病院の集会室を借りて大きく間を開けて座り、手術室全体合同のデイブーションと、ウイルスに関連しての勉強会等をするようになったので、新しく決まったことに遅れないように、それには出るようにしていました。休暇前と同様、足りない物品等のために週末や夜中に急に呼び出されることもありまし

現在、日本からケニアに郵送出來なくなっているようですが、最近二度にわたって昨年各教会から送付された船便を何箱か受け取りました。缶詰、病理検査用の空き容器、個人的な食料など、いつも以上に感謝でした。

家事を手伝って下さる現地の方にも同期間休暇を取っていただいたので、今のうちではありませんが、数年越しの懸案だった納豆づくりもすることができました。■



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香\*2020年4月29日

今日日本にいます。ザンビア日本大使館から帰国のすすめと局長からの帰国のご指示があつて帰国の準備を進めました。帰国に当たって就労ビザ延長の準備に入りましたが中々通らず大変でした。入局管理局に電話も通じないので急遽、所が閉館寸前に着いて対処方法を教えて頂きました。こうしているうちに飛行機の運航が停まったと知りまし。就労ビザの手続きも中々必要書類が送れず問題続きでした。そのような中で日本へ行く飛行機があるという連絡がありました。その頃のザンビアのコロナ感染者は45人で死亡者2人の状態の中、ルサカへ行く途中のカフェという町で新しい患者さんが出て死亡された後にコロナ感染者であることが解りました。私は18日発の飛行機ですが、就労ビザの確認が入国管理局に確認に行かなければならないので何かあったら困る

と思い16日出る予定にしています。しかし15日、電話があり、カフエの町がブロックされて通れないとのことでした。祈りつつ頼んでおいた運転手と連絡を取る中、少し逆回りで行けるからと答えて下さいました。結局16日朝3時に出てチョマという町に出て運転手と会ってルサカに向かいました。午後2時に入国管理局へ行けたのですが、受け入れて頂けず翌日に来るように言われました。幸い1日早めに出てきていたので、翌日無事に済み、無事に飛行機に乗ることができました。マラウイやボツワナからもルサカに来て帰られる方が来て乗る状態でした。

19日夜、無事に成田に着きました。検疫では熱は計られ健康チェックの用紙は書きましたが、それだけでした。これでいいのかしら？と一瞬思いましたが無事出られて感謝でした。公共の乗り物は使えないのでレンタカーの予定でしたが飛行機が遅れ、検疫での時間もかかり帰宅は20日ということで空港で1泊して、20日にレンタカーで我孫子のミッションハウスに着きました。14日間の待機期間ということで今はミッションハウス待機中です。幸い熱もせず今のところ何の症状もなく元気にしております。

今回の帰国までの18日間は、本当に背後にある皆様のお祈りに支えられ守られていたことを実感しています。本当にありがとうございます。



平瀬義樹・光世\*2020年5月11日

弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。(ヨハネ二〇・19)台湾のクリスチャンの挨拶は、「平安! (ピンアン)」です。これは、「願你平安! (平安があなたがたあるように)」の省略で、まさに冒頭の聖句からきています。昨今の、コロナ肺炎の不安で、なおさらこの思いが強くなりました。「平安があなたがたにありますように。」世界中のクリスチャンがこのような心からの言葉を交わすことができたら、どんなにすばらしいでしょうか。

4月以降、当局の封じ込め策が順調に進んでいることが数字でも公表され、市内の警戒フェーズが少し緩和されました。「油断してはならない。警戒を怠らないように」との異例の注意喚起付きですが、大規模の集まりにはなお制限がありますが、通常の市民生活は、

手洗いや洗面・うがいと、社会的距離の確保、原則的にマスクを着用すること以外は、ほぼ元に戻りつつあります。感謝なことに、病院や老人ホームなどの福祉施設でも、今週から、家族限定、一回二人、訪問許可が下りるようになりました。入居中のR兄の強い要望で、娘さんとともに訪問することが許されました。外部からの訪問者は、まず入口で、手の消毒と検温をし、温度センサーのモニターを通り、体調不良など健康の検査を受けます。また、その間、全民保健カード(国民健康保険に相当)を提示し、そこにリンクされた海外渡航履歴や既往症などの情報がネットですべて確認され、異常がなければ、晴れて入場となります。入口には、2mの立ち位置の線があり、間隔を開けて、検査を受けます。最初は、慣れるまでは、少し大げさに感じるようなシステムでしたが、すでに市内のほとんどのコンビニ、商店、デパート、銀行、市役所などがこの対応ですから、検査する側も受ける側も大きな戸惑いや混乱もなく、スムーズな流れができています。

現状では、教会内でも出席できる方と出席が困難な方とに、二分されていきますが、欠けを補い合う形で奉仕を分担し、主に仕える一致が与えられています。集会に長期出席の許されない愛兄弟の対処の難しさに苦慮しつつも、すべてをご存知の主を見上げて、共に進んでいます。

■会計報告4月分  
宣教献金 八六〇、八六〇円  
月平均 一、六五九、七六六円

お祈りの課題

- ◆ザンビア (富澤)  
ザンビアのコロナウイルス感染の終息のため
- ◆ジエンボクリニツクの人手不足の中で、働きが守られるように。ワーカーが守られるように
- ◆ザンビア (根廻)  
ザンビア・シエンポの人々が守られるように
- ◆ザンビアの人々が神様に繋がるように
- ◆再赴任が未定の中にあっても主に信頼し続けられるように
- ◆台湾 (平瀬)  
急激な暑さで、連日の30度越え、時には、真夏の気温35度越えになる日も増えてきました。高温超多湿の到来です。台中教会・台南日本語礼拝の集会を持ち続けることができますように
- ◆しばらく集会出席の許されていない方々のため
- ◆医療従事者と、高齢者の同居家族が来会できません。熱心に求道しておられた年配の方々自宅待機を余儀なくされています
- ◆子どもたちの日本の生活が守られますように
- ◆香港 (鹿島)  
30間香港に滞在されていた男性(56歳)の方が、癌で召されました。葬儀の感謝とご遺族の上(奥様は香港の方です)に上からの慰めが

- ◆与えられますように
- ◆牧師たちの出入りがまた出ません。健康と以前の働きが続けられますように
- ◆コロナ以後の香港の経済回復と政治的な安定のため
- ◆フィリピン (豊田)  
非常事態によって帰省中の学生たちの学び、霊性のため
- ◆ウエスレアン教会の牧師とその家族の健康的、経済的、精神的必要のため
- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害疫病から家族が守られますように
- ◆カンボジア (眞田縁乃)  
毎週発信される御言のメッセージに御霊の御働きが力強く伴い、結果を見ると共に説教者ウアンディ師に膏注ぎを御祈り下さい
- ◆地方のウエフサイトも使えない牧師や信徒達が教会を再開できるよつ、又、無実の罪で投獄中のパウロ兄、宣教地に戻る道の為に祈る宣教師方の為に御祈り下さい
- ◆カンボジア宣教師の道が閉ざされる事から守られ再開に向けて新しい住いに待つ眞田の健康・霊性が支えられるよつお祈り下さい。(エゼキエル四七章9節)
- ◆ケニア (眞田就子)  
現在もウイルス等から守られている感謝
- ◆マラリア、新型コロナウイルス、イナゴ、テロ等から守られるよつにまた対処できるように
- ◆麻酔科、整形外科を始めとする働き人(ルカー一章2節)が起されるよつに



# 聖宣神学院報



## Immanuel Bible Training College

### どこに行くのかを知らずに

院長 ● 林 正弘

「信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました。」

(ヘブル一・8)

今学年度の神学院は、新型コロナウイルスの感染拡大により、特別な形でスタートしました。4月、神学生と職員は可能な限り集まり、オリエンテーションを行いました。今にして思うと、それは主が備えてくださった恵みの機会でした。四月には授業は行わず、教師から出された課題によって学びが進め

られました。5月には、と願っていた入学式も行わないことになりました。そして5月中旬になってオンラインの形で授業が始まりました。インターネットを通してですが、顔を合わせ、対話しながら進めることができるようになりました。新しい形ですが、実質的な学びの開始です。そして、この原稿を整えている間に今年の創立記念日を迎えました。昨年はこの時期に創立七〇周年記念式典が行われたことを思い出すとともに、71年前のことに思いを致しました。もちろん筆者はその場にいたわけではありませ



神学院のスタッフです

ん。しかし、5月17日に15名の一期生を迎えて入学式が行われ、翌日から授業が始められたことが記録されています。ビルの一室で行われていたので、教師も生徒も全員通学・通勤でした。どのような雰囲気であったのだろうと想像します。熱気はあったと思いますが、先が見えない不安はなかったのだろうか、と。しかし、皆アブラハムの信仰をもって、主の召しに従い、どこに行くのかを知らなくても、嬉々としてスタートを切られたのだろうと思います。時代は全く違いますが、今年も実質5月スタートで、先も見えていません。しかし、私たちもアブラハムに倣い、どこに行くのかを知らなくても、召してくださいと主に従い、主を見上げて進んでいきます。

### 神学エッセー 教会音楽概論 1 賛美の内面化



河村みち

賛美をする時、私たちは賛美が内面化することを意識的にしていないように思います。意識しなくても自然に内面化していることもあります。ですが毎回の集会での賛美をどのくらい内面化させて賛美しているか、自らに問うことはあまりないように見受けられます。賛美の内面化について、触れてみたいと思います。もともと芸術は内面を整える場であり、人の心の奥深くにまで影響を与えるものでした。つまり人間の本性の改善の役割も果たしていました。芸術の本質とは、深く見て見えないものに、よりリアリティーをもたせ、存在の本質に迫る言葉にならない直感的なものです。情緒に流される薄さとは違うものを言います。それは感情の部分に働きかけます。

私たち日本人は、感情を表に出さないことが美德とされてきたところがあります。感情を押し殺すことが精神の強さと結びつきます。感情を出すのは弱いものがあることという意識が深いところにあります。痛いのに痛いと言わない、苦しいのに苦しいと言わない、泣きたいのに泣けないなど、感情表現を大切にできなかったと思います。礼拝も知性が納得することに重点が置かれ、感情が置き去りという傾向にあります。確かに感情は不確かで危うい印象がありますので無理ありません。本当の礼拝とは、会衆が神に届き神が会衆の中に来て魂と魂の出会いのあるところです。そして自分の魂がどのような状態かを知るツールは知性とともに、感情も大きく関係します。感情は血の通った人間らしさ、自分らしさの証です。ので、向き合わなければ人格の統合されていないバランスの悪い人格形成になります。冷淡、冷酷、残酷、感情のマヒからくる非人間的な言動に結びついてきます。賛美は知性だけでなく、感情を伴って賛美される必要があります。そしてその時賛美の内面化が起こります。賛美をする時この内面化を大切にしたいと思います。歌詞の意味をイメージし、感情をそこにのせて賛美するのです。音楽的な技術が向上するにつれ、音楽の世界もこのことはあまり重要視されず、技術の競い合いの方向に向かっていきました。そうであれば、なおさら教会こそ心に感動をもって賛美をすることを大切にしたいと思います。その意味では、教会の音楽は芸術の本質に近いのではないかと思います。

◆普段とは違う生活ですが

鷺の目をいただきたい

短期コース 田中利道

「主を待ち望む者は新しく力を得、鷺のように、翼を広げて上ることが出来る。」(イザヤ四〇・31)

皆様のお祈りと、お支えをありがとうございます。お陰さまで毎日御翼の陰にいたることが出来ます。新型コロナウイルスのために礼拝にも授業にも出ることができない状態です。出された課題を中心に毎日、聖書をひたすら読む訓練をしております。課題図書を読みながら、自分なりに要点をまとめていきます。どちらも、ひたすら読むという訓練です。アメリカの最高責任者になるためには、速読できなければならぬと、聞いたことがあります。大量の文書を読みこなし、理解しなければ、サインできないからです。速読でなくても読み続ける訓練は大変役にたつ学びだと思えます。

イザヤ書からエゼキエル書までを読むという課題で、各書を2章づつ読むというものでしたが、読んでみて、分かったことは、何も分からないことでした。このような読み方は蟻の目だと思いました。

空から見ないと、森全体が見えないことが分かったのです。

そこで、取り組んでみたのが梗概付きの聖書を参考にしながら、大見出しごとに赤い線で微をつけて一気に読むようにしてみました。時には20章を一気に、あるいは10章ごとに読むのです。すると、大見出しの内容がなんとなく理解できるようになりました。何となくでも、すばらしい進歩でした。このような読み方は鳩の目だと思えます。できたら、もっと高く翼を広げて上ることができたらすばらしいと思います。宇宙から見た日本の夜は、タツノオトシゴのような形をしてとても美しいと、評判です。聖書全体を空から見ることができたら幸いです。私の願い鷺の目をいただきたいのです。

◆普段とは違う生活ですが

神ご自身が

正規コース 石川 順

「あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあつて永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみの後で回復させ、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。」(1

ペテロ五・10)

神学生2年目をスタートすることができました。皆さまの厚いお祈りと尊いサポートを心から感謝します。新しい年度、どのようなスタートになるかと思つたら、新型コロナウイルスの影響で共に集まつて礼拝ができないためにオンラインで礼拝をするという状況。やったことのないオンライン礼拝配信のために教会に向かいます。慌ただしいスタートになりました。

様々なことが中止や延期になり外出自粛で家にこもりがち。そんな生活でストレスが溜まつてしまふ。期待していた新しい歩み、それが失われた痛み、また、感染するのはないかという不安と死に対する恐怖が私たちを襲います。そして、ウイルスではなく人を責め、人と人がさばき合い人間関係が壊れていく。なんでこんな苦しみか私たちに降りかかってくるのかと思ふことがあります。神様にお祈りをする毎日です。そんな中で頭に浮かんだことばが「ペ



テロ五章10節です。これは、私に与えられた今年のみことばです。苦しんでいる私たちを回復させ、堅く立たせ強くし、不動の者としてくださるという約束です。その約束を成してくださるのは、

「あらゆる恵み」に満ちた神です。ちよつとした恵みではありません。そして、誰でもない、あらゆる恵みに満ちた神ご自身が、私たちとともにいてくださることを感謝します。このような状況ですが、主の助けを頂きつつ今年度の学びに励みたいと思ひます。皆さまの健康が支えられますように。

◆普段とは違う生活ですが

主を見上げて

聴講生 石川牧子

「しかし、わたしに聞き従う者は、安全に住み、わざわいを恐れることなく、やすらかである。」(箴言一章33節)

主の守りと皆様の祈りの中で歩めることを感謝致します。この春は私の入学式と娘の入園式の予定でしたが、残念ながら両方とも行われませんでした。新型コロナウィルスによる影響は私たちの生活そのものの中にも及んでいます。日常生活できていたことができ

なくなり、先の見えない事態を理解しながら、様々な選択と判断が求められます。自分の選択していることが周りの人から悪く思われまいかという心配も出てきます。こうなつてくるとストレスが溜まり始め、夫や娘にイライラの波が伝わり始めます。ここで、はたと気付くのです。自分は今何を見ているのか。静まつて祈る時、度々主は言われます。『私を見なさい。』主を見上げて祈り、振り返ると、与えられた恵みがありました。神学院のオリエンテーションの朝、スーツを身にまとう私と夫の姿を見て、娘は自分の幼稚園の園服を持ってきて『これ着てく!』と大張り切り。入園式はなかったけど、三人揃つて晴れ着姿で記念写真を撮つて頂きました。幼稚園の休園に伴い、娘と遊ぶ時間も延長され、一番喜んだのは娘です!お姉さんになりたくない!と言つて幼稚園は気が進まなかった娘。でもこの自粛期間で親子の時間をたっぷり過ごしています。家族寮の物凄く広いベランダにテントを常設して自然の中でご飯を食べたり、学院の森林を探検したり、雨が降つても、物凄く広い家の中で走り回つても、ドンドンしても、大きな声で叫んでも大丈夫!4歳の誕生日もこの期間に迎えました。ゆつくりペースでお姉さんになる準備もでき、今は『マスクして幼稚園行けばいいんじゃない?』と言つております。全て憐れみによって私たちは生かされています。感謝!

### 私の神学生時代 それはペヌエルの地 24期生●廣瀬邦男



母教会の浦和の地が、私にとって「ペテルの地」であるなら、神学院はまさに「ペヌエルの地」と言えます。浦和教会にて、汚れた生活を主イエスの血に洗われ罪を赦され、清新な生命と躍動のクリスチャン生活を始めることができました。それはまさに「靈魂の誕生の地」であり、救い主と出会うことができた「ペテルの」地でした。そうして私は、恐るる心もなく神学院に入学させて頂きました。整えられた方々の中で、それは全く「異質」ともいえる存在であった、と今に思います。始まった共同生活の中で私は、当然ながら厳しい人間関係で悩みました。それは「苦惱」「苦闘」という段階でした。「この人だけには負けたくない！」という激しい願望が常に私を苦しめ、その人との陰惨な人格的闘いへと落ちてゆきました。恐らく相手の方も苦しんでおられたのであろうと思います。

そんな日々が続いていた一年生の冬、当時の朝比奈総理が特別週で「チャペル」の時を持ってくださいました。その兄弟との緊張しきった中で、私の精神も身体もガチガチという状態でした。そしてそのチャペルの中で、私はその兄弟に「負けてしまふ」あるしぐさをしてしまったのです。その時の私は絶望の底に突き落とされました。「この兄弟だけには負けたくない」と思っていた私。自分の全てがガタガタと崩れ落ちて行きました。その真つ暗な暗黒の中で、私は泣きながら「自分はぼろ雑巾のようなものだ……」と思いましたが、そうして私は、私は主に申し上げました。その奈落の底で。「主よ。私はぼろ雑巾のような者なら、私はもうあなたにこんな自分を献げます。」と。

その時でした。聖霊のバプテスマが下り、私は一切から解き放たれました。もう横の兄弟に気をかけることはなく、意識もせず、緊張もなくなりました。愛が、愛が満ち溢れ、天を仰いで私は祈り続けました。「主よ。主よ。私は今、この兄弟の為に死ねます。今、死ねます、この兄弟を愛して……。」涙が滞りなく流れました。しかし真に解放された喜びと、神の全き愛を掴んだ、確信に満ちた力と真実に満ちた自分でした。聖書のお言葉が私の胸の中に響き渡りました。朝比奈総理の声ではなく、神から出た言葉として……。

「人を己より優れりとせよ。」(ピリピ二・3)「汝らキリストイエスの心を心とせよ。」(ピリピ二・5)と……。それは紛れもなく私にとって「ペヌエルの経験」でした。

### 同窓生の近況

53期生

ルーテル告白教会●鈴木雅雄



「正義を勝利に導くまで、彼は傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない。」(マタイ二・20)

神学院を卒業して15年が経ちました。今回の近況執筆の依頼には少々戸惑いましたが、これまで多くの方がお祈りに覚えてくださっていたことを思い感謝申し上げます。持病の肝炎は4年前に新薬の投与によって癒されました。神は10年以上の苦しみを通して回復の時を定めていてくださったのです。しかし新たな肉体のとげ、喘息と緑内障が見つかり、神の憐みの恵みと共に通院が続いています。卒業時、折れた葦の状態であった者を主なる神は見捨てず、くすぶる灯心のような教会に据えてくださいました。振り返ってみて、ここに愛と憐れみの神を感じざるを得ないのです。傷は癒え、灯心は持ち直しましたが、教会の成長発展はこれからです。更なる恵みの雨(Showers of Blessing)が注がれ、更なる恵みの高嶺(Higher Ground)に据えてくださるよう祈り求めています。皆様の教会にも大いなる祝福をお祈りします。

### 元気に育つておくれ!

営繕課 徳竹信雄

今年も、さまざまな想定外の出来事が続く中で、ようやく春らしさを実感できました。

それはたくさんさんの樹木を切ったために、風通しと見晴らしの良いキャンパスに生まれ変わったことです。こぼれ落ちた種は芽を出し、苗木となり、元気に育っていることです。自然の生命の神秘を改めて想い、主に感謝しました。

最初は桃の木です。ピンクと赤の微妙なコンビネーションで、3月に駐車場を飾ってくれました。男子寮の脇に小さく芽を出した松の木は、元気がいっぱい駐車場の入口で育っています。女子寮の屋根で発芽したヒマラヤ杉はペテルハウスの駐車場の上方、陽当たりの良い一等地に移植し、根付いたようです。「元気に育つておくれ!」

神学院スタッフ…恵みの想起

学苑だより



- 新型コロナウイルスのために延期されていた入学式・始業礼拝は、5月初旬開催を願っていましたが中止となりました。
  - 新入生3名には、神学院運営委員と出身教会の先生からの励ましのこぼの色紙が送られました。
  - 5月2週目から方針をオンライン授業に切り替え、それぞれクラスが始まっています。
  - 本館1階の管理人室は夫婦で住めるように家族寮に改修し、5月半ばから使い始めています。
  - ボランティアの方々のご奉仕はしばらくお休みになります。図書館も休業しています。
  - ペテルハウスは閉鎖しています。お問い合わせは馬場姉まで。
  - ホーム・ページで「後援会たり」、「創立70周年記念プロジェクト報告DVD」をご覧いただけます。ぜひのぞいてみてください。
- 神学院祈り会は行いません。

### サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。4月の会計報告をさせていただきます。

4月分支援実状  
〔今年度毎月献金目標〕  
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」  
¥535,000  
教会団体による「神学院献金」  
¥392,600  
合計 ¥927,600  
その他の献金(一時・特別)  
¥243,000

・振替：00230-0-10138

# 公報

## 本部通達

常置委員長、監事の計34名です。  
 ▽11日(木)の災害対策委員会はオンライン会議となります。  
 \*25日(火)に予定されていた厚生委員会は中止いたします。

### ■総務局

「彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、主の臨在の御使いが彼らを救った。その愛とあわれみによって、主は彼らを贖い、昔からずっと彼らを背負い、担ってくださった。」(イザヤ六三・9)

上半期を締めくくる月に入りました。今年はコロナウイルスによる影響で困難の中に、ペンテコステを越えた教会も多くあったと思います。諸教会に聖霊により、主がともにおられ背負い導いてくださることを信じ、祝福をお祈り申し上げます。この困難の中でも新たに主に出会い、導かれる方々が起こされ、伝道は進んでいます。決して望みを失うことなく進み続けましょう。今月は三月末から延期となった年会在が小規模の事務年会として開催されます。総会に備えた年会でもありますので、ぜひお祈りください。

▽月例教財勢報告について  
 PDFファイルやエクセルファイルにしてEメール添付で送信する形態に切り替えることが可能となっております。すでに切り替えにご協力くださり感謝申し上げます。メールでの送信に切り替え可能な教会はどうぞよろしく願っています。教財勢報告書のエクセル用フォーマットをご希望の教会は本部までお申し出ください。

### ■国内教会局

コロナウイルスの影響で経済的に困難を覚えておられる教会は各ブロックアドバイザーを通じて国内教会局へご相談ください。

《JEA総会》  
 ▽第35回JEA総会  
 6月1日(月)〜3日(水)につま恋リゾート彩の郷で開催が予定されておりましたJEA総会は規約に基づき、文書とZoomによる総会に変更になりました。IGMの代議員は、内山勝、岩上祝仁、葛田聡毅、葛田直毅、川嶋直行の各師5名です。

《JEA関係》  
 ▽第27回東海聖会は中止です。  
 《JEF福岡大会中止》  
 ▽6月14日(日)〜16日(火)に開催が予定されていた第53回JEF総会・福岡大会は中止となります。

### 《会議》

◇第75次年会(事務年会)8日(月)午後1時半〜3時半  
 オンライン会議  
 出席者は教団運営委員、各教区主事、北海道、沖縄の各地区代表

す。なお総会は文書で行います。  
 ■世界宣教局  
 ▽葛田緑乃宣教師は左記の神栖教会第二集会場の住居に移転されました。

3140345 茨城県神栖市土合南3・11・5  
 (携帯)090-8819-0314  
 ▽6月2日(火)に局運営委員会と局員会がオンラインで持たれました。  
 《IWF関係》  
 ▽5月19日〜26日(火)にメール交換でのIWF理事会を開きました。

▽宣教師たちは2月以降、教会に集まる代わりにオンラインなどで活動しておられます。  
 ■教育局  
 《青少年部・中高生課》  
 ▽第13回とにキャンの通常開催は中止が決定しました。それに代えて、8月10日(月)にオンライン上でZoomを用いての開催を計画中です。午前・中学生、午後・高校生とグループを二つに分けて行います。

講師・朝岡勝師(同盟・徳丸町教会) テーマ:「メダリストになくならないもののために」  
 《青少年部・青年課》  
 ▽第7回全国ユースステーション8月13日(木)〜15日(土)、(ペテルハウス)の開催も中止を決定しました。YS全国大会に代わるプログラム「YSオンライン」8月15日(土)午後3時〜5時、講師は松尾献主事です。

▽11月22日(日)〜23日(月)にYSB第4回全国リトリートの開催を予定しています。  
 \*コロナウイルスの影響により、大きな軌道修正を余儀なくされ、オンラインでの集会開催を目指して委員による懸命な準備がなされている中高生とユースの大会のために、格別な導きとみ助けをお祈りください。

■聖言神学院  
 ▽入学式・始業礼拝は中止となりました。入学式に臨まれる予定だった3名のためにお祈りください。石川牧子姉(2019年秋入学、東京フリー・メソジスト桜ヶ丘教会出身、聴講) 林眞光兄(蒲田シオン教会出身、正規コース) 金承柱兄(東京フリー・メソジストみずほ台教会出身、聴講) ▽神学院祈り会は行いません。 ▽後援会関係 5月には後援会より第7号をお送りしました。ぜひお読みください。

▽ベテルハウスは新型コロナウイルスの感染拡大防止のため閉鎖しています。再開については改めてご連絡します。お問い合わせは学務課の馬場姉まで。  
 ▽BTC後援会からのお知らせ ・後援会より第7号をお送りしました。ぜひお読みください。 ・創立70周年記念プロジェクト報告のDVD「BTC恵みの軌跡」を教会宛にお送りしました。 神学院HPでもご覧いただけます。

## ■出版事業部

▽2020年版の「祈りのネットワーク」が発行されます。例年のように、「イムマヌエル教報」の購読をしておられる方には例年のように無料でお届けします。今年是有料分の注文を取ることができませんでしたので、昨年と同数を教会宛に送付いたします。これも無料とします。もしお支払いがありましたら、各教会で献金としてお用いください。今年もぜひ祈りのネットワークをご活用ください。

## 消息報告



▽静岡教会の横山望兄(総会信徒代議員)は、5月21日(木)に御許に召されました。66歳でした。ご遺族にお慰めをお祈りください。  
 ▽矢木洋子師(桂町教会)のお母様、村井淑子姉(高津教会員)が5月3日に89歳で召天されました。ご遺族に主の慰めをお祈り申し上げます。

▽中村喜仁師、妙子師(引退牧師)の住所が変更になりました。  
 899-5241 鹿児島県始良市加治木町木田100 県営西江口団地三棟101号室  
 ▽渡辺昇師、宣子師(本年3月引退)の新任所は左記の通りです。  
 001-0021 札幌市北区北21条西6丁目1・23・502 グラnde  
 イールN21ウエスト502  
 教報PDFパスワード#7907

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣  
 発行人 東京都千代田区神田駿河台一〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部  
 印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇  
 郵便振替 0011007133609  
 新生宣教団 定価 一部110円(税込)